



1989年
ヴェネチア国際映画祭
国際評論家協会連盟賞
受賞

1988年
ヨーロッパ映画祭
グランプリ
受賞

《愛の映画作家》クシシュトフ・ケシロフスキ その美しさに世界中が喝采。 伝説の傑作が輝きを増してふたたびスクリーンに蘇る。

「トリコロール三部作（『青の愛』『白の愛』『赤の愛』）」「ふたりのペロニカ」などで知られるポーランドの名匠クシシュトフ・ケシロフスキが1988年に発表した連作集。「デカ」は数字の「十」、「ローク」は「言葉」を意味する。旧約聖書の「十戒」を下敷きに、まるで人の心の中を覗き込んだかのような、現代を生きる人々の愛と孤独を、細やかに鮮やかに描きだした心揺さぶる珠玉の10篇。もともとテレビシリーズとして製作されたがその質の高さが評判を呼び、1989年ヴェネチア国際映画祭で上映され、後に世界中で公開され賞賛された。また本作中の「ある殺人に関する物語」「ある愛に関する物語」は再構築され「殺人に関する短いフィルム」「愛に関する短いフィルム」（共に88年）として劇場公開された。前者はカンヌ国際映画祭審査員賞を受賞し、ケシロフスキの名は世界的なものとなった。本作は公開時に、スタンリー・キューブリックが「重要な映画」と絶賛。そのほかエドワード・ヤン、侯孝賢ら数多くの映画作家たちがケシロフスキの才能を羨望し賞賛した。生きていればきっと誰もが直面してしまう〈人生のさまざま〉。それでも、誰かに抱きしめられたときの体の温もり、やさしく声をかけられたときの心の高ぶり。スクリーンから滲んでくるケシロフスキの眼差しは鋭くもあたたかい。生涯80年/没25年の2021年、最新レストレーションにより一層美しさと輝きを増したデジタル・リマスター版が待望の日本公開！

“誰の人生でも探求する価値があり、
秘密と夢があると私は信じているんだ。”

クシシュトフ・ケシロフスキ / 監督・脚本



監督：クシシュトフ・ケシロフスキ
Krzysztof Kieślowski

脚本：クシシュトフ・ケシロフスキ
Krzysztof Kieślowski
クシシュトフ・ピエシェヴィチ
Krzysztof Piasewicz

音楽：ズビグニェフ・ブレイズネル
Zbigniew Preisner

原簿：DEKALOG / 1988年 / ポーランド作品 / DCP
上映時間：167分 / カラー / 字幕：有無可変 / 監督：田村夏樹
制作：Tokyo-Poland 株式会社

